

議事録（概要）

会 議 名	令和5年度第1回地域包括ケア推進委員会					
会 場	芦屋町役場4階44会議室					
日 時	令和5年6月30日（金） 10:00～12:00					
委員の出欠	委員長	中村 貴志	出	委員	上田 直樹	出
	副委員長	小徳 薫	出	委員	福原 光次	出
	委員	櫻井 俊弘	出	委員	末武 司郎	出
	委員	岳藤 さおり	出	委員	松尾 シズ子	出
	委員	安部 知彦	欠	委員	川上 誠一	出
	委員	白石 英也	出	委員	中西 智昭	出
	委員	瀬戸 公美	出	委員	占部 吉郎	欠
件名・議事	<p>議事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 芦屋町高齢者福祉計画令和4年度取組結果、令和5年度計画について 2 芦屋町地域包括支援センター運営状況について 3 予防給付に係るケアマネジメントを委託できる居宅介護支援事業所の承認について 4 第9期芦屋町高齢者福祉計画策定のための住民アンケート結果について 5 第9期芦屋町高齢者福祉計画策定の骨子案について 6 その他 					
合意事項 決定事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 芦屋町高齢者福祉計画令和4年度取組結果、令和5年度計画について ・報告、了承された。 2 芦屋町地域包括支援センター運営状況について ・報告、了承された。 3 予防給付に係るケアマネジメントを委託できる居宅介護支援事業所の承認について ・報告、承認された。 4 第9期芦屋町高齢者福祉計画策定のための住民アンケート結果について ・報告、了承された。 5 第9期芦屋町高齢者福祉計画策定の骨子案について ・報告、了承された。 					

令和5年度第1回地域包括ケア推進委員会 議事録

○日時

令和5年6月30日(金)10:00～12:00

○場所

芦屋町役場4階 44会議室

○協議事項

- 1 芦屋町高齢者福祉計画令和4年度取組結果、令和5年度計画について
- 2 芦屋町地域包括支援センター運営状況について
- 3 予防給付に係るケアマネジメントを委託できる居宅介護支援事業所の承認について
- 4 第9期芦屋町高齢者福祉計画策定のための住民アンケート結果について
- 5 第9期芦屋町高齢者福祉計画策定の骨子案について
- 6 その他

議事1 芦屋町高齢者福祉計画令和4年度取組結果、令和5年度計画について

- 事務局から【資料1】「第8期芦屋町高齢者福祉計画令和4年度取組結果・令和5年度行動計画シート」に基づき説明。

(委員)

- ・地域ケア会議についてだが、年間で何回程度開催されているのか。
- ・どういった方々が参加されているのか。
- ・自立支援の促進について記載されているが、本人が自立できる状態に至っていないのに、自立を強く促すような問題が生じてくるように感じる。問題はないのか。

(事務局)

- ・令和4年度は6回開催。
- ・助言者として専門職の方を招いている。具体的にはケアマネージャーや作業療法士、理学療法士、歯科衛生士、薬剤師、管理栄養士等に参加いただいている。
- ・自立支援型の対象となる方は、要支援の方を中心とする介護度の高くない方であり、基本的には支援があれば自立できる方であり、自立が難しい人にまで自立を促すことはないので、特に問題はない。

議事2 芦屋町地域包括支援センター運営状況について

●事務局から【資料2】「地域包括支援センター運営状況について」に基づき説明。

(委員長)

- ・地域包括支援センターの運営に関して、現状何を課題と認識しているのか伺いたい。

(事務局)

- ・地域ケア会議に関して、自立支援に向けた取り組みとともに地域課題の把握が大きなテーマ。地域課題の把握から施策に結びつかないことが現状としての課題。

(委員)

- ・P8 オレンジカフェについてだが、回数が2回、参加数も13人と少ないように感じる。

(事務局)

- ・令和4年度はコロナ禍で回数が少なくなった。今年度は回数を増やし、参加者に楽しんでいただけるような内容を考えている。

(委員)

- ・昨年もオレンジカフェのお声掛けをいただき、事業所の利用者の方、ご家族と参加したが、自分ひとりで抱えていたことを共有できたのご家族からとても喜ばれた。認知症ケアについても以前は9割女性だったが男性が多くなり、試行錯誤している。オレンジカフェや芦屋町が取り組んでいる認知症の研修会があれば、職員皆で参加し、勉強させていただきたいと思っている。
- ・芦屋町にも認知症初期集中支援チームがある。芦屋中央病院からも看護師が参加しており、今後充実していかなければならないと思っている。
- ・認知症は早く見つけることが非常に重要。認知症を早期段階で見つけるための問診プログラムがある。そういったところで医療が絡めるのかなと思っている。
- ・オレンジカフェの開催などの呼びかけをどのように行っていくかは課題としてほしい。

(委員長)

- ・医療、介護、福祉、色々なネットワークをつくりながら総合的な地域支援事業を展開していくことが重要になる。
- ・地域での課題について皆さんの意見を伺いたい。

(委員)

・地域のサロン活動などに地域包括支援センターから保健師の方などを派遣していただき、交流している。相談したらすぐに動いてくださって感謝している。認知症の方については早期発見が本当に大切だと思う。

(委員)

・認知症の早期発見に努めてもらいたい。
・認知症の方を町がどれくらい把握できているか分からないと具体的な手を打てない。家族の中だけで必死にケアしている方も多いように思う。
・実情を把握することが大切だが、認知症の方と会話していても、普通に話しているときは認知症とわからないこともあるため、正確な患者数を把握することは難しい。認知症の早期発見の重要性を周知することが最も大切だと思っている。

(事務局)

・福岡県介護保険広域連合会が実施している高齢者生活アンケートの結果に基づき、認知、うつ、閉じこもり等、該当する項目にチェックが付いた方に対しては町の保健師が訪問し、聞き取りなどをおこなっている。認知症の疑いがあると思われるときは家族とおして、病院受診をすすめるなどの取組みを行っている。

議事3 予防給付に係るケアマネジメントを委託できる居宅介護支援事業所の承認について

●事務局から【資料3】「予防給付に係るケアマネジメントを委託できる居宅介護支援事業所の承認について」に基づき説明。

(委員長)

・意見等はないようなので、承認いただいたこととする。

議事 4 第 9 期 芦屋町 高齢者福祉計画策定のための住民アンケート結果について

●事務局から【資料 4】「芦屋町高齢者福祉に関するアンケート調査結果報告書」に基づき説明。

(委員)

・P14～16 あたりで感じたことについてだが、自分の身体を預けていいと思える先生がいればかかりつけ医と考えていいように思う。通院の際の移動手段について、やはり自動車（自分で運転）が多い。公共の交通機関をもっと広い範囲でカバーし、考えていただければと思った。また、通院の必要を感じない方が 7 割以上おられるが、生活習慣病など自覚症状がない、気づいていない方が多い。こういった方にどうやって受診していただくか、町、役場全体で取り組むべき課題ではないかと思っている。

(委員長)

・通院に対する移動手段、通院していない方の値の高さについて、行政に伺いたい。

(事務局)

・通院の必要を感じないと回答された方が 7 割以上となったのは、この設問が、通院する際の移動手段で「通院はしていない」と回答された方に聞いている設問になるため、割合が多くなっているのかと思う。

・病院につながるタウンバス、巡回バスについては、利用状況を見ながら便数などを引き続き検討するよう、バスの担当部署に話をしていきたいと思っている。

(委員長)

・P58、相談窓口が必要という方が 47.3%、前回と比較して 4.8 ポイント減った。解釈が難しいように思うが、減ったのは相談窓口が充実したから減ったのではないか。勘違いされない記載方法に変えた方がよいように思う。

(事務局)

・確かに前回と比較すれば充実したという取り方もできる。記述を見直したい。

(委員)

・就労していない理由で、働きたいが機会がないとある。高齢者能力活用事業が活用されていない理由などがあるのか。登録している方の感想や登録されない理由などあれば教えて頂きたい。

・働きたい方のやりたい事と事業内容がマッチングしていないようなイメージなのか。

(事務局)

- ・高齢者能力活用事業については、芦屋町社会福祉協議会に委託し、高齢者の募集や登録を行っている。例えば町が管理している公共施設の清掃業務、除草作業などをお願いしているが、体力が必要な業務も多く、そういったところがネックになっているのではないかと思う。
- ・作業内容を増やしたいという話は芦屋町社会福祉協議会と以前から行っているが、事業の拡大ができておらず、今後の課題と考えている。

(委員)

- ・私が勤務する事業所でも人員不足が慢性化している。募集しても人が来ない。良質な介護をするには職員を安定的に配置し、寄り添える運営を行うことが必要。洗濯や掃除など短時間勤務の人に来てもらえれば、介護職員も介護に専念できる。働きたいけど働く機会がないと言われていた方と施設等をどうやって結び付けたいかアドバイスいただければ助かる。

(事務局)

- ・高齢者能力活用事業も活用していただけるように思うので、一度、芦屋町社会福祉協議会に連絡いただければどうか。また、県が運営する生涯現役チャレンジセンターなどでは、高齢者の方への就職の斡旋も行っている。そちらなどを活用いただければと思う。

(委員)

- ・訪問看護の部分で悪くなるまでは在宅、最後は病院で、という選択が今後難しくなってくるように思う。今後最後をどこで過ごしたいか、自分の意思表示ができ、家族が理解し、自身の考えに添える形で最期を迎えられることが、国などでも課題になっている。介護サービスの充実で選択肢も増え、安心して地域で生活できるようになると思う。

議事5 第9期芦屋町高齢者福祉計画策定の骨子案について

●事務局から【資料5】「第9期芦屋町高齢者福祉計画 (R5. 6. 30 骨子案)」に基づき説明。

(委員長)

- ・質疑応答ないので、承認いただいたこととする。

議事6 その他

(事務局)

- ・次回の会議については、8月後半から9月前半頃開催予定。

以上